

令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

このたび、スポーツ庁から5年生児童を対象として1学期に実施した調査（新体力テスト）の結果が届きましたので、その調査結果をお知らせいたします。本日配付の個人票と合わせてご確認ください。

1. 本校と全国平均値との比較（新体力テスト）、各種目の内容

調査項目	男子	女子	単位	体力要素	測定方法
握力	○	◎	kg	筋力	左右握力の平均値
上体起こし	▲	○	回	筋パワー・筋持久力	30秒間に上体を起こした回数
長座体前屈	◎	◎	cm	柔軟性	長座位で前屈したときの両手の前方への移動距離
反復横とび	○	◎	点	敏捷性	20秒間に両脚で左右側方に反復跳躍した回数
20mシャトルラン	▲	▲	回	全身持久力	20m 走行の折り返し回数
50m走	▲	○	秒	疾走能力	50mの疾走時間
立ち幅とび	▲	▲	cm	筋パワー・跳躍能力	両脚で前方へ跳躍した直線距離
ソフトボール投げ	▲	○	m	巧緻性・投球能力	ソフトボールを遠投した距離
体力合計点	○	○	点	8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した体力テスト合計得点	
総合評価	○	○	5段階	8種目の体力テストをすべて実施した場合、体力テスト合計得点の良い方からABCDEの5段階で評定した体力の総合評価	

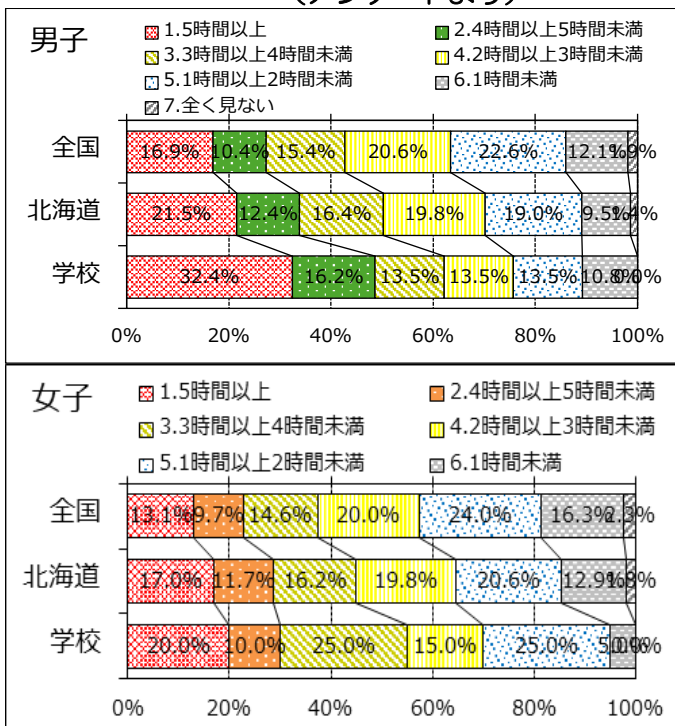
※◎～全国平均値以上 ○～全国平均と同等 ▲～全国平均値以下

2. 資料

① 1週間の総運動時間（%）
（運動習慣等調査より）

項目	男子	女子
全くなし(0分)	7.9	4.3
1時間未満	2.6	10.6
1時間以上～7時間未満	36.8	40.4
7時間以上	52.6	44.7

② 平日のスクリーンタイム
（アンケートより）



3. 結果から

体力・運動能力については、昨年度の課題であった反復横跳び・20mシャトルランについて、反復横跳びは改善が見られ、全国平均値以上または同等まで向上しました。一方、20mシャトルランについては、改善はみられるものの、全国平均値には至っていない現状です。今後も引き続き、全校での持久なわとびの取組を継続し、向上を目指して取組みます。

今年度は、体力合計点・総合評価ともに全国平均値並みになりましたが、20mシャトルラン（全身持久力）や50m走（疾走能力）に弱さが見られます。全校児童の結果においても顕著で、男女共に多くの学年で課題となっています。そのため、全校的な「走力」向上への取組を進めていきたいと考えます。

1週間の総運動時間（資料①）について、本校5年生は2極化がみられます。7時間以上運動をしている児童が半数程度いるのに対して、運動時間が「全くなし」「1時間未満」の児童も10%を超えます。全国と比べ、朝里の児童は、日常的に自主的に運動に参加する意識が高い数値となっていますが、学校では、さらに運動好きの児童を増やせるよう、授業や「運動環境の場」の工夫を進めていきたいと思えます。各家庭での自主的な運動への参加に、引き続きご協力ください。

また、スクリーンタイム調査週間に行ったアンケート（資料②）をもとに、日常生活習慣を見直し、運動する時間の確保を促して参ります。ご家庭におかれましては、スクリーンタイムのルール作り等、ご協力の程よろしくお願ひします。